



Embassy  
of the Republic of Poland  
in Tokyo



2020年7月1日

駐日ポーランド共和国大使館、ポーランド広報文化センター

## ニュースリリース

### ポーランドがヴィシエグラード・グループの議長国に（2020年7月1日－2021年6月30日） 「V4+日本」関係

7月1日から1年間、ポーランドは中欧4カ国で構成されるヴィシエグラード・グループの議長国を務めます。ポーランド、チェコ、スロバキア、ハンガリーは、歴史、経験、価値観を共有し、飛躍的な経済発展を遂げています。総人口は6500万人にのぼり、欧州において重要な政策決定を左右する存在となっています。

ヴィシエグラード・グループの設立は、4カ国にとって、1989年の体制転換以降、NATO加盟、EU加盟に次ぐ、政治的な成功であると評価されています。鉄のカーテン崩壊後、中欧において設立された唯一の地域協力の枠組みであり、重要課題を実現しつつ、更なる目標に向けて発展を続けています。協力分野は多岐にわたり、4カ国が輪番制で1年間の議長国を務めます。近年、グループの協力は、新たな次元に達しつつあります。EUの政策アジェンダの重要な論点に対し、V4は共通の利益を効果的に具体化し、結束したアプローチを行っています。

ポーランドが議長国に就任する中、目下、世界は新型コロナウイルス感染症による前例の無い危機にあります。このパンデミアに対する、欧州並びに世界各国の医療、社会、経済対策がその後の国家、地域、EUについては国際社会の発展に決定的な影響を及ぼすことでしょう。V4諸国は、新型コロナウイルス感染症による影響を克服し、中欧地域およびEUの社会・経済活動を取り戻し、発展軌道に回復させるため積極的に協力しなければなりません。ポーランドはV4議長国として、従来どおりEUの総合的および各セクターの政策アジェンダに沿って、現状の課題に取り組みます。特筆すべきは、任期後半となる2021年2月にヴィシエグラード・グループ設立30周年を迎えることです。



ポーランドが V4 議長国として推進するキーワードと目標は下記のとおりです。  
キーワード - „Back on track” (正しい軌道への回帰)

目標:

1. 強い欧州の中の強い V4 (*Strong V4 in a strong Europe*) – EU 枠内における V4 諸国の活動の結束を目指して；
2. 通常への回帰 (*Back to normality*) – COVID-19 感染症とその影響の克服を目指して；
3. 人的交流 (*People-to-people*) – V4 内の更なる統合を目指して；
4. V4 デジタル協力 (*e-V4*)

ポーランドは議長国として、ヴィシェグラード・グループ設立 30 周年を記念し、これらの目標の実現に取り組めます。

ヴィシェグラード・グループは、世界、とりわけ日本において認知度が高まるよう努めています。同時に、日本が中欧地域に寄せる期待と関心を高く評価しています。EU において V4 は益々存在感を強め、徐々に欧州のみならず大西洋間の国際舞台においても注目されるようになって来ました。ヴィシェグラード・グループと日本の協力は、今年 1 月にマテウシユ・モラヴィエツキ首相が来日した際にも、日本・ポーランド首脳会談の主要テーマの一つとなりました。

ヴィシェグラード・グループは、第三国との協力枠組み「V4+」を推進しており、2004 年に「V4+日本」協力が始まりました。ヴィシェグラード・グループと日本の協力は、民主主義、人権の尊重、法の支配といった普遍的価値を礎とし、既に 16 年の実績があります。V4 と日本の連帯は、2011 年 3 月に発生した東日本大震災の際にも、V4 から被災地への支援という形で示されました。2013 年には、「V4+日本」協力 10 周年を控え、ワルシャワで歴史上初の「V4+日本」首脳会合が開催されました。同時に、この時の安倍首相による訪問は、ポーランドの EU 加盟後初の日本の首相によるポーランド訪問となりました。首脳会合では、「V4+日本」協力をはじめ、防衛、経済問題についての協議が行われ、共同声明「21 世紀に向けた共通の価値に基づくパートナーシップ」が発出されました。更に、2014 年を「V4+日本」交流年とすることで合意しました。「V4+日本」協力は日本・EU 間の戦略的パートナーシップに付加価値をもたらす、欠くことの出来ない存在となっています。

日本は、ヴィシェグラード・グループが、緊密な協力関係を結んだ最初の欧州外の国です。「V4+日本」協力は、日本と中欧 4 カ国それぞれの二国間関係ならびに日本・EU 関係を補完することを目的としています。首脳会合は、高級事務レベル対話をはじめ各レベルにおける対話を継続させる上でも意義があります。2013 年のワルシャワにおける第 1 回首脳会合に続き、2018 年には第 2 回「V4+日本」首脳会合が第 12 回アジア欧州会合 (ASEM) 首脳会合に伴い開催され、2019 年には、日本側のイニシアティブによりブラチスラヴァにおいて第 3 回「V4+日本」首脳会合が実現しました。科学技術、経済および貿易分野における協力をはじめ、気候問題に対する取り組みが主要議題となりました。首脳会合に加え、外相会合も定期的に行われています。

V4 と日本は、民主主義、市場経済、世界平和の構築を共に推進しています。西バルカン、東方パートナーシップをはじめ、東アジアおよび欧州の安全保障問題においても、「V4+日本」協力が進められています。更に、国際連合において、経済、科学技術、イノベーション、エネルギー、気候分野における相互協力を深化させることで合意しています。

ヴィシェグラード・グループは経済的に大きな潜在性を秘めています。このことから、V4は、欧州の将来を構築し、欧州大陸における新経済秩序を形成する重要なパートナーであると見なされ、一目置かれる存在になっています。飛躍的な発展を遂げる V4 市場は、日本企業にも多くのビジネス・チャンスを提供しています。既に多数の日本企業が V4 諸国の魅力を評価し、投資・進出し、雇用を生み出しています。昨年発効した包括的な経済協定である日 EU 経済連携協定は、V4・日本間の貿易拡大と V4 諸国への日本の投資を促進させる新たな機会を創出しています。貿易および投資の拡大といった経済協力の強化は、広義の V4・日本関係の発展に欠かせない要素となっています。

大学で学ぶ若い世代が多いのは、ヴィシェグラード諸国の特徴的な共通点であり、彼らの多くが日本への留学に関心を持っています。日本の大学が提供する多数の交換留学プログラム、また数年前から利用出来るようになったワーキングホリデー制度を活用し、毎年多くの V4 諸国の学生が日本を訪れています。日本の大学で得た知識と経験を生かし、日本において研究職に進む者も少なく無く、日本との学術交流の促進に貢献しています。V4 との大学間協力において特筆すべきは、学校法人城西大学です。10 年前から V4 諸国の 20 の大学と交流協定を結び、これまで、300 名近い V4 諸国の学生を受け入れるとともに、500 名に上る同大学の学生を V4 諸国に送り出しています。更に、V4 諸国の研究者を雇用し、定期的に V4 諸国の研究者および学生が参加する学術会議を開催しています。理化学研究所をはじめとする日本の権威ある研究機関においても、多くの V4 諸国の若手研究者が国際共同研究プロジェクトに参加し、活躍しています。

文化に関して言えば、ヴィシェグラード・グループは V4 諸国の音楽、文学、芸術、フォークロア、料理を日本で紹介するイベントを共同開催しています。V4 各国はこれらの分野における共通点も多く、伝統や料理、芸術、民族音楽を一堂に集めることにより、中欧地域の認知度を高める相乗効果が得られています。更に、現代音楽、デザイン、現代文学を扱うシンポジウムやイベントを開催し、各国の言語、多様性、昨今の飛躍的な発展を紹介しています。定例となった人気の共同事業の一例として「V4 中央ヨーロッパ子ども映画祭」が挙げられます。この映画祭は、ポーランドが前回、議長国を務めた際に提案したものであり、今日まで継続されています。日本にある V4 各国の文化センターは協力して、ポーランド、チェコ、スロバキア、ハンガリーの文化的な絆を紹介するとともに、豊かな歴史と文化、魅力を発信し、観光を推進しています。

(参照) <https://www.youtube.com/watch?v=qlgjFtJwvIY>

駐日ポーランド共和国大使館

駐日ポーランド共和国大使館

<https://www.gov.pl/web/japonia/ambasada>

[tokio.amb.sekretariat@msz.gov.pl](mailto:tokio.amb.sekretariat@msz.gov.pl)

Twitter: @PLinTokyo

Facebook:

<https://www.facebook.com/Ambasada-RP-w-Tokio>

ポーランド広報文化センター

<https://instytutpolski.pl/tokyo>

[tokio@instytutpolski.org](mailto:tokio@instytutpolski.org)

Twitter: @PLInst\_Tokyo

Facebook:

<https://www.facebook.com/InstytutPolskiTokio/>